



## 識字運動から学ぶ

一人の百歩より百人の一步前進を

前阿南市人権教育・啓発講師団

講師 坪井次郎 さん

### 1 はじめに

皆さん、人権・同和教育に関する啓発用の看板があるのは、ご存知ですか。徳島県庁の西側の交差点から見える敷地内に「知ろう 考えよう なくそう 部落差別」のスローガンが、大きく掲げられています。

「みんなでなくそう 部落差別」このスローガンは、小松島市の庁舎の屋上にあります。

阿南市では、毎月第一日曜日を「家庭人権学習の日」と定め、家庭から差別をなくしていくとともに、豊かで明るい街づくりを推進していこうと取り組まれています。これは、差別をなくす取組から、「いのちを大切にしましょう」と行政自ら推進している実態です。

他の市町村においても、人権教育の大切さを全面的に打ち出して、差

阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、人権に対する思いを掲載していきます。

別解消に向かって資質の向上に努めています。

### 2 識字学級のさらなる進展をめざして

県内の識字学級の状況ですが、現在、6つの市や町で15学級が文字を奪い返す運動として開設されており、1975年5月に徳島市の鮎喰識字解放学級が県内で一番早く取り組まれて学習に励んでいます。

「ようけおるなあ、先生。これみんな、部落差別をなくしていく仲間え？」これは、私がある識字学級生と全国同和教育研究会（以下全国研大会）に初めて参加したときのことでした。それは、第38回全国研大会松山大会（1986年）で、全国から集まった参加者が3万人をはるかに超える人々の熱に、ただただ圧倒され、心を揺さぶられました。

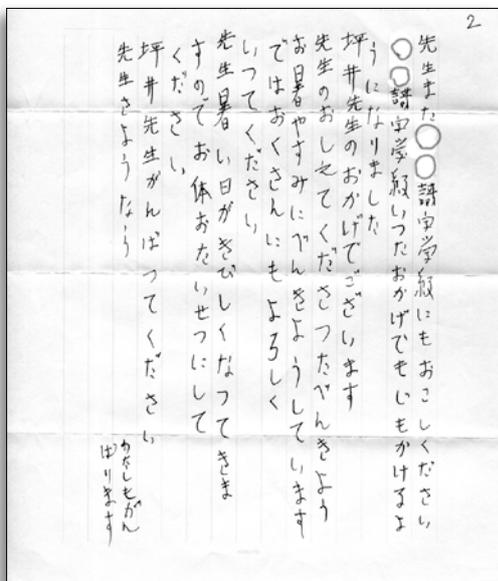
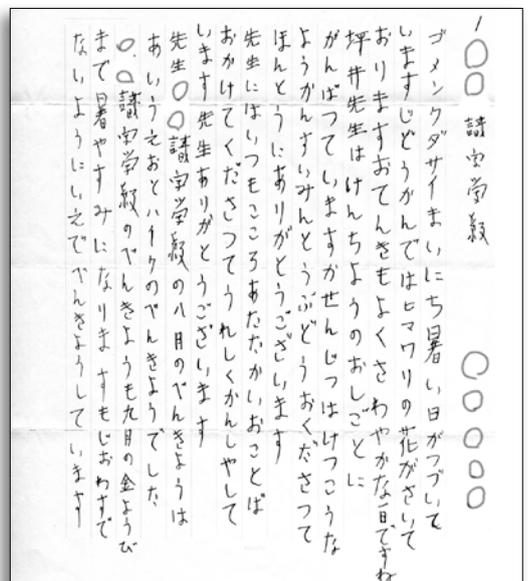
私が共学者として識字学級に参加したのが、1986年でした。当時の代表者や識字学級生は開設するに当たって、行政の関係者に何度も何度も面会しお願いに行きました。これは、行政からの識字学級開設の声

掛けでなくて、地域からの盛り上がりでした。

開講当時の識字学級生は、「私や鉛筆や持ったことない。」この言葉を聞き、美術の先生に、鉛筆を握った様子をデザインしてもらってコピーしたもの、教室に誰もが見えるように何枚も掲示しました。識字学級生からは、「これで、やっとなんと一緒に勉強できる。」など口々に喜びの言葉が出ていました。学習中にある識字学級生は、「私やな、家が貧しくて、学校や行ったことがない。」と言って学習に励んでいました。

これはまさに、部落差別に対してまっすぐに前を向いていて、一生懸命文字を取り戻そうとしている姿です。そして、非常に明るい識字学級生は、夜遅くまで学習しています。これが解放運動の原点につながっていき、部落差別と真っ向にぶつかっている識字学級生と共に学習することの大切さを痛感しています。

つづきは次回、7月号で掲載します。



※ある識字学級生からの手紙

問い合わせ

人権・男女共同参画課

☎ 22-3094